

# 憲法が輝く兵庫県政をつくる会

## 第17回臨時総会を開催

2020年8月26日

次期兵庫県知事選挙を来年7月に控え、「憲法が輝く兵庫県政をつくる会」は8月26日、第17回臨時総会を開催し、18の地域の会・加入団体から29人が参加しました。

総会では候補者選考委員会の設置を確認し、コロナ禍における兵庫県政の課題について意見交換をしました。

石川康宏代表幹事は「安倍政権がまともなコロナ対策を取れない中、政治は私たちを守ってくれない、政治を変えたいという意識が国民の中に広まっている。こういう形に政治を変えようという希望ある政治の姿を分かりやすく示すことが大事だ」とあいさつ。

次に、東郷泰三事務局長が候補者選考委員会の設置と候補者づくりの考え方について、『会』としての候補者づくりを進めつつ、共同の候補擁立の可能性も視野におき、同時並行で取り組む」ことを提案し、確認されました。

討論では「国の新自由主義政策いいなりに社会保障を削ってきた県政の問題点が明らかになった」「分散登校の中で少人数学級の良さが実感され、各地で運動が広がっているが兵庫県は背を向けている」「医療機関は地域医療を守ろうと懸命にがんばっている。国の『医療従事者への慰労金』に制限をかけようとして県民の批判を受けた知事の姿勢は大問題」「候補者づくりは、医療、教育、地域経済の活性化など要求の議論とあわせて進めていくことが大事」「様々な活動に制限がかかる中、オンライン集会やSNSの活用をレベルアップしていくことが不可欠」などの提案がありました。

津川知久代表幹事は、閉会あいさつで「兵庫県政の様々な問題点が指摘され、県政を変えるためにどうするか提案もあった。オンライン、SNSの活用強化

とともに、直接の対話活動も大いに進めていこう」と呼びかけました。